

# 令和2年度 N I E実践報告（実践2年目）

霧島市立青葉小学校

## 1 テーマ

読書（新聞）のよさを味わい、自分の世界を広げることができる児童の育成

## 2 目指す子どもの姿

- (1) 低学年・・・新聞に興味をもち気付いたことを表現できる子ども
- (2) 中学年・・・情報をもとに自分の考えをもち表現できる子ども
- (3) 高学年・・・相手意識をもち自分の考えを表現できる子ども

## 3 実践内容

- (1) N I Eタイムの実施
- (2) N I Eコーナー(新聞閲覧)の活用
- (3) 新聞を活用した授業等の実践

## 4 研究の実際

### (1) N I Eタイムの実施

月に1回、朝の時間（8：30～8：45）にN I Eタイムを設けている。新聞を活用した学習活動で、学年で統一した内容を実施している。以下主な取り組み。

#### 【1年生】

新聞の記事に興味を持たせるため、子どもたちに馴染みのある動物や食べ物の記事を抜粋して紹介し、新聞への興味を高めた。はじめは文章を読めない子どもや読んでも意味を理解できていない子どもも多く、絵や写真等を目で追っている状態であった。回数を重ねるごとに、読めない子に対して読める子が読み方を教えている姿が見られた。現在は小学生新聞等を活用し、たくさんの記事の中から自分の興味のある記事を選び、感想を発表する活動を取り入れている。

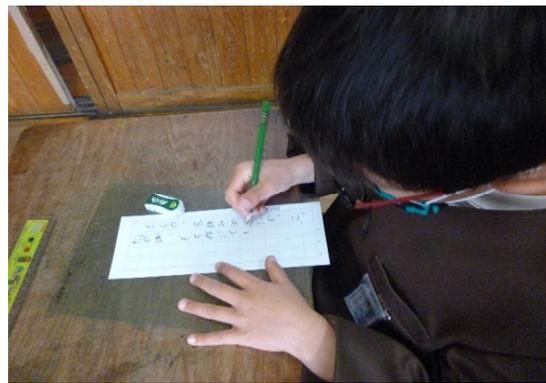




### 【2年生】

「若い目」欄を読み、短冊作文に60字以内でまとめるという活動を中心に取り組んでいる。

60字以内で書くという課題に対しても抵抗なく取り組めるようになった。自分なりの表現で感想をまとめていた。



### 【3年生】

黒酢をテーマにした地域の記事を取り上げ、社会の学習内容とつなげたり、将来の夢ランキングに関する記事を活用したり、鹿児島弁クイズなどの記事を読んで鹿児島弁の意味を考えたりするなどの活動を通して、新聞＝文字が多くて読むのが難しいというイメージを持つ子どもが多かったが、身近な題材が取り上げられていることに気づき、興味を持って新聞に向かい合う姿がみられるようになった。



#### 【4年生】

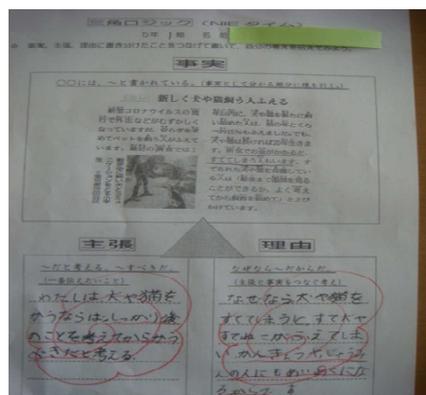
主に「みなみエデュ」のワークシートを活用し、4年生向けの話題をもとに記事を読み、何が書かれているか理解し、問題に答える活動に取り組んだ。難しい言葉などは辞書で意味を調べながら読んでいた。



#### 【5年生】

新聞の記事をもとに三角ロジックの考え方をを使って、事実の読み取りと、そこから自分の主張を持ち、その理由までまとめるという流れで活動を進めた。

南日本新聞社のホームページよりダウンロードしたワークシートにも取り組ませた。



#### 【6年生】

南日本新聞社のホームページより教科の学習内容や生活の課題に応じた内容のワークシートに取り組ませた。



## (2) N I Eコーナー(新聞閲覧)の活用

昨年度、おやじの会の協力により新聞閲覧台を制作してもらった。子どもの視線の高さに合っており、閲覧しやすくなっている。従来は、畳のコーナーに長机を置き、その上に新聞を置いていたが、閲覧台は子どもたちが気軽に新聞を読むことができている。そのため、閲覧する子どもが増加している。

毎朝配達された新聞を、生活・ボランティア委員会の子どもたちが校内にある4つの新聞閲覧台に広げて展示している。



## (3) 新聞を活用した授業等の実践

社会科や理科の教材と関連した記事を資料として活用し、国語科の作文指導の際にテーマを考える材料として新聞記事を使って指導したり等、授業の資料としての活用にも取り組んだ。また家庭学習の一つとして、5年生では毎週2回新聞記事の視写を取り入れたり、新聞の感想を書かせるなどの課題を与えたりしている。6年生では夏休みや冬休みの課題として新聞づくりに取り組ませた。見出しを工夫したり、レイアウトを考えたりと新聞の記事を参考に意欲的に取り組んでいた。

## 5 成果と課題

### (1) 成果

- ・ 環境を整えたり、新聞を活用した学習活動を設定したりすることにより、全体的に新聞に親しむ機会が増えた。また言語に関する知識が増えた。
- ・ 高学年では、新聞の記事をもとに自分なりの考えを文章に書く活動を通して三角ロジックの考え方が少しずつ身についてきている。

### (2) 課題

- ・ ネットが普及し新聞を購読していない家庭も多く、新聞に親しむ機会が多い子どもと少ない子どもの個人差が大きい。
- ・ 発達段階上、新聞に書いてある内容を正確に読み取ることが難しい。
- ・ 教科等の特色をふまえた上で、新聞活用の日常化を図っていきたい。